

本大会申し合わせ事項

本大会は、日本卓球協会(以下 JTТА)の規則に則り、行うが、以下に記載した改正・例外及び変更については、本大会の申し合わせ事項として、JTТАの規則より優先されるものとする。

【競技上の注意について】

出場選手は、ゼッケンを着用すること。

- ① JTТА 指定ゼッケンが望ましい。
- ② 自分で作成する場合は、縦 20cm × 横 25cmとする。
- ③ 本大会は、ネームプリントされているウエアを認める。

【車いす使用競技者の規則】

車いす使用競技者は、JTТАの規則に則って競技するものとする。
ただし、特例として、末尾項の審判長判断事項を認める。

-車いす競技者のルールについて-

・シングルスにおけるサービスのルール

- ① エンドラインを通過せずサイドを横切ったものはレットとなる。
- ② レシーバー側の台でバウンドした後、ネットの方向に戻った場合、または静止した(エンドラインを通過しない)場合は、レットとする。

・ダブルスにおけるサービスのルール

- ① 「車いす使用競技者の規則」により有効なサービスを行い、レシーバーが有効なリターンをする。その後は、ペアのどちらかが打球する。(当該チームのペアは、交互に打球する必要はない。)
- ② 当該選手の車いすは、テーブルのセンターラインの延長線上を越え、自己のパートナー領域にはみ出してはならない。センターラインの延長線上を越えた場合は、相手にポイントを与えるものとする。ただし、車いすがはみ出すことなく、身体がセンターラインを越え、打球した場合は有効である。

卓球台への接触

打球後、身体バランス回復(危険防止)のために、卓球台を動かさないことを条件に、ラケットハンドを卓球台へ接触することができる。ただし、車いすの方向等をコントロールするために、卓球台を掴む・触れる等の行為は禁止されており、その行為を行った場合は相手方の得点となる。

車いす

- ① 車いすには、少なくとも2個の大きい車輪と、1個の小さい車輪が必要である。
- ② 競技中は、足を床に触れないものとする。触れた場合は、相手の得点となる。フットレスを取り付けることも可能。
- ③ 本大会は、ストラップまたは他の補助器具を使用することができる。

【立位競技者の規則】

立位競技者は、JTТАの規則に則って競技するものとする。
ただし、特例として、以下の審判長判断事項を認める。

【審判長判断事項】

- ① 選手が競技する前に、障害のため正規なサービスができないと申告があれば、審判長の判断により、正規のサービスのための条件を緩和することができる。
- ② 選手が障害のため競技中、身体バランス回復(危険防止)をとる際の、「フリーハンドで卓球台を掴む・触れる」等の要求を事前に申告することができ、その場合は審判長の判断に委ねられる。